

反畑誠一（たんばた・せいいち）先生

音楽評論家 立命館大学客員教授

講師紹介は、開講式のページに記載

### 〈講義概要〉

本講座のコーディネーターである立命館大学の反畑誠一客員教授が、後期の中間総括を行った。

まず、最近の音楽業界の流れとして、今年話題となったヒルクライムの楽曲『春夏秋冬』を流し、このアーティストのプロモーション戦略の特徴について詳しく解説した。また、反畑氏が足を運んだ、中島みゆきや ALICE のライブについても紹介。さらに、JASRAC 創立 70 年記念パーティーに出席し、そこで感じた著作権の現状についても指摘した。

引き続き、中間総括の本題としてビジネスプロデューサーの役割や育成に関して、前期の中間総括の内容を踏まえ、さらに進んだ内容の講義を行った。エンタテインメント産業界の現在のビジネス構造を見直し、ビジネスプロデューサーとクリエイティブプロデューサーの役割分担の徹底や両者の関係性の確立が、業界の発展に不可欠であることを詳細に説明した。さらに、デジタル技術とネットワークをどの様にビジネスモデルに取り込むかが重要な課題であり、やはり知的所有権の知識が重要なポイントとなることを伝えた。

講義の中では、これまでの講師の講義内容についても各所で触れながら、学生がさらに深く考えるきっかけを与えた。

講義の中では、これまでの講師の講義内容についても各所で触れながら、学生がさらに深く考えるきっかけを与えた。



## 〈受講生の感想〉

私は前期もこのエンタテインメント産業論をとっていましたが、やはり後期でも授業内容が盛りだくさんで、中間総括がくるのがとても早かったです。今日の中間総括は反畑先生が的確に現在の問題を指摘していて、先生の立場だからわかる、言えることを聞いてとてもおもしろかったです。

立命館大学・産業社会学部・1回生

前期の中間のときも同じような話を聞いたが、今回もう一度聞いて、前とは比べものにならないほど、理解、納得することができた。きっと前期～後期まで多くの先生方の話が実になったのかなと、とてもうれしく感じた。けれども、まだ著作権など分からない部分があるので、残りの授業の中でももう少しでも理解できることを目標としたい。

立命館大学・産業社会学部・1回生

ビジネスマネージャーとクリエイティブマネージャーをきっちりと分けることでそれぞれが集中して制作していくことができるときいて、なるほどと納得しました。同時に今まではそれが徹底されていなかったことに驚きました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

クリエイティブプロデューサーとビジネスプロデューサーの関係性や役割はとても大切なものだと思うし、お話を聞くことができてよかったと思うし、前期のレポート作成時の自分の考えから、もう少しさらに考えを深めたいと思うことができた。

立命館大学・産業社会学部・1回生

ヒットメーカーや時代をつくっていくにはクリエイティブプロデューサーとビジネスプロデューサーの両方の存在と仕事がどれだけ重要なのかよく分かりました。また、アーティストの育成に対し、中・長期的に行うことはエンタテインメント産業だけでなく全てのことに言えることだと思います。今日やったから明日すぐ結果の出ることなどほとんどないのだから、モノ作りは子育てと同じように長い目で手間ヒマかけてあげることが成功への第一歩なのではないかなと思いました。

立命館大学・文学部・3回生

デジタル技術とインターネットをどのようにビジネスモデルに組み込むのか。非常に難しい問題であるが、反畑先生から示唆されたテーマであるため、これから取り組んでみようと思う。さらに、知的所有権に精通するという目標も持って、この業界に就職できるような人間、さらにはこの業界の発展に役立てる人間になりたいと思う。

立命館大学・産業社会学部・1回生

前期の内容が頭に入っていたので、前回の知識を踏まえていくことができ、より理解を深めることができた。やはりエンタテインメント産業には様々な方向性、視野があって興味深い。

立命館大学・産業社会学部・1回生

中島みゆきさんは私たちもある程度知っているが、アリスも中島みゆきも昔売れた人というイメージだったが、今でも私達は知っているし、音楽番組でも見る。やっぱりすごい人は年を経てもすごいのだなと思った。ぜひライブや舞台や作品に触れてみようと思った。

立命館大学・産業社会学部・1回生

最初にヒルクライム『春夏秋冬』売り出しの秘密が聞けたところが興味深かったです。宣伝も力を入れ方次第でアーティストの売り上げを大きく左右するという事に気づきました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

ヒルクライムや Greeen のプロモーション戦略は、とても印象的でした。その裏側で、今までの講師の方がお話して下さったデジタルやバズといったところに効果的に使われている意図や背景を感じることが出来ました。同志社女子大学・学芸学部・4回生

エンタテインメント産業論を通して、様々なことを学び、私はマネジメントすることにとっても興味をもちました。ひとつのイベントに対して十分な時間を設け、計画的に準備を進めていく。ここには意図があり、そのように戦略的なことを考えるのは、とてもおもしろいと思いました。音楽産業に関して、現状・課題共に講義を通してわかりましたが、これからもっと学んで将来につなげたいと思いました。

立命館大学・映像学部・1回生